

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 心理学 ）	氏名	福 田 哲 也
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>羞恥表出者に対する観察者の行動および評価に関する研究 — 日常場面における観察者の行動生起プロセスの検討 —</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教 授 森 永 康 子            審査委員 教 授 宮 谷 真 人            審査委員 教 授 中 條 和 光            審査委員 准教授 樋 口 匡 貴 （上智大学総合人間科学部）</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>羞恥（embarrassment）は、社会的に受け入れられない自己像や他者に馴染みのない自己像が露呈した時など自身が望まない苦境に置かれたことを意識した際に生じる感情と定義され、いくつかの特徴的な表情によって表出される。当該論文は羞恥が日常的に頻繁に発生する感情であることに注目し、日常的な場面における羞恥の表出によって引き起こされる観察者の行動の生起プロセスを明らかにし、その適応的意味についての考察を試みたものである。</p> <p>当該論文は4章から構成される。第1章では、羞恥表出によって観察者からポジティブな評価および行動を獲得するという先行研究の知見が網羅的に紹介され、そうした羞恥表出が人間の適応において重要であることが指摘された。さらに、日本での研究の不在や日常的な場面での検討の不足とともに、羞恥表出を観察している他者からの表出者に対する評価および行動へと至るプロセスの未検討、羞恥表情の種類への考慮不足といった問題点が指摘されており、これらの検討が研究の目的となる。</p> <p>第2章は、日常場面において羞恥表出者に対して観察者がどのような行動をとるのか、また、どのような評価を行うのかについて検討した実証的研究をまとめたものである。大学生を対象とした調査の結果、日常的な場面において羞恥表出者は、表出性（例：恥ずかしがり屋だ）、社交性（例：社交的な人だ）、利己性（例：わがままな人だ）、消極性（例：おとなしい人だ）という4種類のパーソナリティ評価の次元によって、さらに、困惑（例：戸惑っている）、不可解（例：考えがわからない）、可笑しさ（例：笑いを取ろうとしている）、満足（例：嬉しく思っている）、怒り（例：イライラしている）という5種類の心的状態の推測の次元によって観察者から評価されることが示された。また観察者の行動は、援助（例：なぐさめる）、放置（例：自分だけその場から離れる）、ユーモア化（例：からかう）、観察</p>			

(例: 周りの人の顔を見る) の 4 種類に類型化されることが示された。

第 3 章では、羞恥表出が観察者による行動を引き出すまでのプロセスについての仮説の導出とそれを検討するために行われた一連の実証的研究について述べられている。まず、先行研究に関する緻密な分析をもとに、羞恥の発生状況と羞恥表出の表情の組み合わせに応じて観察者から引き出される行動が異なり、さらに、その行動が観察者による表出者への評価によって媒介されるという仮説が導き出された。仮説をもとに行った実証的検討では、観察者からの援助およびユーモア化の行動が羞恥の発生する状況と表情の組み合わせによって影響されることが示された。特に、羞恥表出者をからかったり茶化したりする行動であるユーモア化は大きな影響を受けていた。次に、ユーモア化に焦点を絞り、その生起プロセスについて検討したところ、社交性および利己性という 2 種類のパーソナリティ評価、さらに可笑しさと満足という 2 種類の心的状態の推測が観察者からユーモア化の行動を引き出すことが明らかにされた。さらに、こうしたパーソナリティ評価や心的状態の推測内容は、成功か失敗かという羞恥の発生状況とその際の表情の組み合わせによって、変化することが示された。

こうした結果を踏まえ、第 4 章では、ユーモア化のもつ攻撃回避機能という適応的意味について論じられ、さらに本研究で検討されなかった行動の生起プロセスの検討が今後の課題として論じられた。

当該論文は次の 3 点において高く評価できる。

- 1) 従来の心理学的研究で関心を寄せられることがそれほど多くなかった自己意識的感情の 1 つである羞恥に焦点を当て、日常に近い場面をとりあげて検討したこと。
- 2) 羞恥の生起状況と表情の種類を組み合わせることにより、従来の研究結果をより精緻化したこと。
- 3) 羞恥表出のもっている適応的意味に注目し、実証的研究を通して考察を深めたこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（心理学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 27 年 2 月 19 日